

日本人の単独行動に対する心理と集団意識との関係

宮城県仙台第三高等学校

F5班

1. 序論

日本の集団意識

→単独行動に否定的になる傾向(※)



自分や他人の行動を抑制

- ・いつはたらくのか？
- ・改善方法は？

4. まとめ・結論

集団意識

メリット
・相互扶助

デメリット
・同調圧力が強い(※)
・少数派に対し否定的(※)

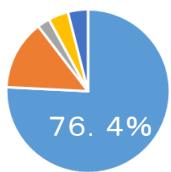
結果考察で提示した改善方法を
活用することで.....

個性を認め合う社会を築くことが可能 になると考える

2. 材料と方法

・本校の生徒及び教員計68人にアンケート
・「自分が一人にいるとき」「他人が一人にいるのを見たとき」の二つを軸に、三通りの場面における心情を調査した。

①自分が受験会場に一人にいる時 ②他人が受験会場に一人にいる姿を見た時

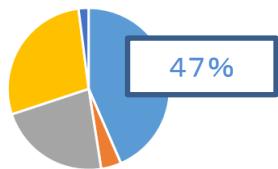


■ 特に何も思わない ■ ひとりでいられて楽
■ ひとりでいたくない ■ 周りの視線が気になる
■ その他

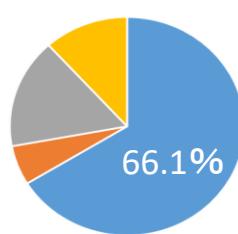


■ 特に何も思わない ■ ひとりでいられて楽そう
■ 自分はこうなりたくない ■ その他

③休み時間の教室に自分一人でいる時 (周りはグループ) ④休み時間の教室に他人が一人で見られている時 (周りはグループ)

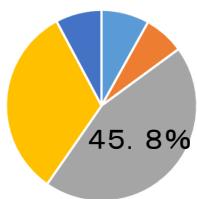


■ 特に何も思わない ■ ひとりでいられて楽
■ ひとりでいたくない ■ 周りの視線が気になる
■ その他

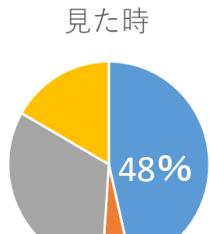


■ 特に何も思わない ■ ひとりでいられて楽そう
■ 自分はこうなりたくない ■ その他

⑤自分一人で遊園地にいる時 ⑥他人が一人で遊園地にいる姿を見た時



■ 特に何も思わない ■ ひとりでいられて楽
■ ひとりでいたくない ■ 周りの視線が気になる
■ その他



■ 特に何も思わない ■ ひとりでいられて楽そう
■ 自分はこうなりたくない ■ その他

3. 結果・考察

グラフ①、②より、周囲が単独行動をしている状況では自分や他人が単独行動をしている方が寧ろ自然で何も感じず、周囲の目を気にして悪いイメージを持つことが少ないことがわかる。

グラフ⑤、⑥より、周囲が単独行動をせず複数のグループで固まっている状況では、自分や他人の単独行動を気にする人の割合がグラフ①、②よりも多いことがわかる。

グラフ⑤、⑥と同じ、単独行動をする人が少ない状況を前提とするグラフ③、④からは、自分の単独行動に対して約半数がマイナスな意見を述べているが、他人の単独行動に対しては半数以上が関心を寄せていない。この結果はグラフ⑤、⑥よりも顕著に読み取れる。



状況によっては必ずしも単独行動に否定的になるわけではない。自分の単独行動のときに必要以上に周囲の目を気にしている。



・一人であることにマイナスなイメージ ×

→ 「少数派」でいることにマイナスなイメージ

「みんな同じであること」を重視した日本の教育方針があると考えられる(※)

改善方法

- ・人との距離感を大切にする
- ・自分の価値観を相手に押しつけない
- ・たくさんの人と活動を共にすることによって自分の度量を広げていく

ひとりひとりの心がけが必要

参考文献

(※) 菅野仁著 友だち幻想(ちくまプリマー新書 2008年)
田上不二夫教授(東京福祉大学・大学院) 磯部智加衣準教授(千葉大学)